

第61回 MESH 環境デザインセミナー

テーマ

[商環境デザインの未来]

企画・実行委員長 加藤和雄

2007年11月24日(土) ※12:45より受付 ・セミナー 13:30~18:30
・懇親会 18:45~20:15

第1部 [商環境デザイン—領域と段階]

商環境デザインとは、どのような領域から成り立っているのか、また、どのような段階性を持っているのかは、商環境デザインの未来を認識する上で、重要なアプローチであると考えます。今回、日本を代表する空間デザイナーの方々と議論を交わし、その内容と構造について迫り、商環境デザインの未来をイメージできれば幸いです。

1. 現時点での [商環境デザイン—領域と段階] の内容と構造について
2. 1960年から2007年間の [商環境デザイン—領域と段階] の内容と構造の変遷について
3. これからの [商環境デザイン—領域と段階] の内容と構造について

第2部 [空間デザインの系譜] 東京—名古屋—大阪

デザイナーは、人から、場所から、様々な状況・コトから影響を受け、作品創造に反映させています。今回、その地域において、極めて重要なデザイナー・思想家・デザイナーに影響を与える人の繋がりを押さえることにより、その地域のデザイン、日本のデザインを理解する上での足がかりとなれば幸いです。

1. 名古屋から見た東京・大阪の空間デザイン・デザイナー・作品・デザイン手法・様式
2. 東京の空間のデザインの系譜
3. 日本の空間のデザインの系譜
4. デザイナーの創造活動において、何からの影響が最も重要なファクターであるのか

セミナープログラム

第1部：「商環境の未来—領域と段階」 13:30~15:30

- ・コーディネーター 加藤和雄
- ・パネラー 飯島直樹・奥平与人・鳥居佳則・大国護益大

第2部：「空間デザインの系譜」 15:45~17:15

- ・コーディネーター 加藤和雄
- ・パネラー 飯島直樹・奥平与人・鳥居佳則
- ・コメンテーター 林 英光

第3部：「学生プレゼンテーション」 17:30~18:30

- ① トライデントデザイン専門学校 学生
- ② 名古屋工業大学 学生
- ③ 愛知県立芸術大学 大学院 学生
- ④ 名古屋デザイナー学院 学生
- ⑤ 愛知産業大学 学生
- ⑥ 椋山女学園大学 学生
- ⑦ NSC デザイン工科カレッジ 学生

- ・コメンテーター 内田邦博・宇賀敏夫・飯島直樹・奥平与人・鳥居佳則
加藤和雄・大国護益大・林 英光

第4部：「コミュニケーションパーティー」 18:45~20:15

※鳥居佳則・亀井リノのコラボレーションによる会場演出

セミナー記録



飯島直樹 Naoki IIJIMA
インテリアデザイナー

飯島直樹デザイン室代表、JCD 理事長
●1949年埼玉県生まれ、1972年武蔵野美術大学
工芸工業デザイン専攻卒業、1972-74年西武百貨店
1976-1985年株式会社スーパーポテト、1985年
飯島直樹デザイン室設立。



奥平与人 Tomohito OKUDAIRA
建築家・商業施設士

文化女子大学造形学部教授
JCD 副理事長、(社) 商業施設士・団体連合会理事
●1946年神奈川県鎌倉市生まれ、1973年早稲田
大学大学院修了後、鹿島建設株式会社建築設計本部へ入社
2006年文化女子大学造形学部教授。



加藤和雄 Kazuo KATO
建築家・デザイナー

加藤和雄 / 状況空間研究所所長
●1952年名古屋市生まれ、1976年名城大学理工
学部建築学科卒業、1976年(株)旧展、(株)ス
ペースシステム研究所を経て、1984年加藤和雄 / 状
況空間研究所設立。名古屋工業大学、椋山女学園大
学、愛知産業大学、名古屋デザイナー学院、トライ
デントデザイン専門学校非常勤講師。



鳥居佳則 Yoshinori TORII
インテリアデザイナー

鳥居デザイン事務所代表
●1959年名古屋市生まれ。日本デザイナー芸術学院
卒業、1990年鳥居デザイン事務所設立。1993年
ナショナルプライティンクコンテスト新人賞、1998
年同優秀賞、2000年JCD奨励賞、MESH2000優
秀賞、2003年SDA賞準優秀賞など、受賞多数。



林 英光 Hideaki HAYASHI
環境ディレクター

ランド&アート研究所所長
●1941年千葉県生まれ、東京芸術大学美術学部卒
業、世界デザイン博覧会景観演出計画、津・松阪海
岸のデザイン、岐阜駅前広場及び周辺地域再開発の
デザインなど多くのプロジェクトを手掛ける。



内田邦博 Kunihiko UCHIDA
オートモーティブデザイナー

(株)国際デザインセンター専務取締役
●1942年福岡県生まれ、1966年東京芸術大学美
術学部卒業、トヨタ自動車入社、1971年アートセ
ンターカレッジオブデザイン留学、1991年トヨタ
自動車第一デザイン部部長、1995年同東京デザイ
ン部部長、2001年(株)国際デザインセンター。



宇賀敏夫 Toshio UGA
インテリアデザイナー

(有)UGAデザインプランニング代表
●1935年生まれ、千葉大学卒業。社団法人日本イ
ンテリアデザイナー協会理事7期(14年)中部テ
ザイン協会理事日本インテリア学会評議委員(東海
支部長歴任)中部インテリアプランナー協会顧問。



大国護益大 Masuhiro OHKUGO
空間プロデューサー・デザイナー

空間工作室 代表
●1948年生まれ、日本大学芸術学部美術学科卒業
1974年空間工作室設立、YAMAHA住宅コンペ、
豊田市景観賞など受賞多数。NSC デザイン工科カ
レッジ講師。

第61回 MESH 環境デザインセミナー

2007年11月24日(土)【文中敬称略】

・セミナー 13:30~18:30 ・懇親会 18:45~20:15

テーマ

【商環境デザインの未来】

企画・実行委員長 加藤和雄

第1部【商環境デザイン—領域と段階】

世代間の違いによるJCD(商環境デザイン)の枠組みがどういう物であることを議論したい

飯島直樹

韓国の大学で話した事を今日話したいと思う。大野一雄(101才)の舞踏家の言っている事で...

「宇宙全域との関わりの中で、あなたは石蹴り遊びをしているんだ」

という言葉がある。

舞踏とは、「空間の強度」の表現芸術であり空間と身体とのキャッチボールであると。このアフォーダンス(affordance)を環境に関係付けながらJCDの受賞作品を紹介したい。

-30代前半のデザイナーの紹介JCD受賞者

ケイコとマナブ(商店建築表紙)表と裏の表現が違うトポロジカルな空間

大野力(ナショップ)

中村竜治(JCD)

これらの作品は、1975自分がやったデザインの手法に良く似ている。今の若い人のデザインと自分が若良い時に経験しているテーマと感ずるところが同じにある。



飯島直樹氏

第2部【空間デザインの系譜】 東京—名古屋—大阪

飯島:大学生時代は学生運動の時期大学では何も学ばなかったが、本を多く読んだ現象学、言語学の本などを読んだ。

奥平:石って重く見えるか?軽く見えるか?心で建築するのがすきである。好きな本はジャンブルーヴェ、八木保

学生の若い感覚と勝負したい。

鳥居:栄NOVAの内装管理室、内田繁の1:1の図面

大阪アクトのデザインを見て影響を受けた。和モダンが好き

いろいろな人との出会いによって、自分の方向性が見えたと思う。

林:環境デザイナー大学3年の時。チャートという本がある。皆さんに読んで欲しい。総合力が大事、感性とシステムが大事

加藤:表現するとき形が変化する(ホモロジー)建築の方がインテリアデザイン



奥平与人氏

奥平与人

有期限建築

鹿島建設に入社、設計部は付属の様な物商業グループに入った。

持続する社会のため3Rがある。

1.REDUCE(リデュース)

発生抑制(軽減)

2.REUSE(リユース)

再使用

3.RECYCLE(リサイクル)

第2部 [空間デザインの系譜] 東京—名古屋—大阪

作品の紹介

「移動シアター」

1000坪の動く劇場自分達で作成できる劇場、「劇団四季」

1ヶ月で作れる(コンテナ使用)

「ozoc」 ワールドが作る一晩で変化できる

「ロードサイド店舗製作」

「文化女子大」

不要な物を使って空間を作る

用途

自分の好きな時間に必要な機能をみずから作る

形態

部材部品及び結合方法、さらに組み立て解体をデータベースとすることより、空間の利用者と設計者が形態を相互に理解して作れる。

意味

誰でも作れる自由で開放されたデザイン

プロフェッショナルリティーは使用空間などの程度によって発揮する。

「美しさ」を形態だけで見ると、自分の体験するベースを討論する事が大事

加藤:伊勢神宮は神の領域を表現しているが、その中での用と形、現れ消える表現については?

奥平:デザインとは何が表現したいのか?だと思ふ。

それには身体感覚を一旦、崩す事が大事

飯島:非構築である事が大事。「雄の建築」「雌の建築」があるが現在は「雌の建築」であると思ふ。

鳥居佳則

建築とインテリアの枠組みは今は無くなって来ているのかなと思ふ。今後は建築の方向に入って行きたい。

作品紹介

エピキュリアン

意の部分は店名竹を使ったデザイン

お好み焼き屋(坪50万)

矯正歯科

歯を直すと言う事は人生も変わる事を表現した。

寿司屋

5感を考えてデザインする機会が多いが、すべて、用、形、意でデザインしている。

加藤:鳥居さんはオーナーとどのようなやり取りでデザインして行きますかまた、エロスについて

鳥居:若い時は形からデザインして行ったように思ふ。年を重ねて意から入り形へとデザインをしている。名古屋のオーナーの場合「用」(流行る店)という意向が多い。異性に対して今までどう生きて来たか?自分の内なる世界。人間性が大事。



加藤和雄氏



鳥居佳則氏

第2部 [空間デザインの系譜] 東京—名古屋—大阪

大国護益大

商環境→外 住環境→内

今の学校には伝える物がない。現場に行き自分を作る、そこで自分の不安をなくす言葉で伝える。コミュニケーション能力を伝える事が大事。先に生まれたと言う事は、教えると言う事である。自分のしたい事をはっきりさせ、みんなにチャンスを作る自分に気付き—不安をなくす—会話する—伝える—内包する

林: 生命体として若者は強い。人に学ぶ事は2流だが、自分で発見すると1流になれる。落ちこぼれであるうが、落ち紺が事はなく、すすんで行けばいい。

飯島: 人のやっているデザイン。建築家でありながらインテリアに挑戦しているひとたち。仕事の向き合い方が違う。デザインは用よりも意が大事。環境は50年後100年後の影響を及ぼす。(グラフィックはすぐ終わるが)CGは嫌い手書きのパスが大切。



大国護益大 氏

第3部 [学生プレゼンテーション]

① トライデントデザイン専門学校 学生

CBC自動車学校のデザイン

② 名古屋工業大学 学生

猫が洞池ギャラリー・カフェのデザイン

③ 愛知県立芸術大学 大学院 学生

成形合板を使った椅子のデザイン

④ 名古屋デザイナー学院 学生

バーのデザイン

⑤ 愛知産業大学 学生

レストランのデザイン

⑥ 椋山女学園大学 学生

星ヶ丘かフェレストランのデザイン

⑦ 名古屋総合デザインカレッジ 学生

森の会所のデザイン



第4部: 「コミュニケーション パーティー」

※鳥居佳則・亀井リノのコラボレーションによる会場演出

